

# やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信  
No. 75 (2007. 12. 12)  
事務局 TEL/FAX 0584-78-4119  
大垣市田町1-20-1 近藤方

## 住民訴訟上告不受理決定

「徳山ダム裁判」は終わりました。長らくのご支援ありがとうございました。  
「問題」は発生し続けています。これからもよろしく願います。

11月30日、最高裁は、徳山ダム住民訴訟の上告不受理を決定しました。名古屋高裁判決は「騙し討ち」です（「やめよ! 徳山ダム」69号参照）。最高裁の「”国”勝訴判決であれば、いかに酷くても目を瞑る一國に追随する一」姿勢がまた表れました。

「徳山ダム裁判」はこれで全て終わりました。徳山ダムに水が貯められつつあります。

しかし「問題」は今なお発生し続けています。徳山ダム「完成」後の当会の名称変更も含め、今後の活動について検討していきます。  
(運営委員会)

## 徳山ダム裁判弁護団長・在間正史弁護士から

徳山ダムの岐阜県工業用水についての住民訴訟の上告棄却の決定が11月30日にありました。すでに報道でご存じの通りです。その理由は上告理由に当てはまらないというもので、内容について検討したうえでのものではありませんでした。以下、訴訟や判決の内容ではなく、私の私的な感想です。

これで、徳山ダムに関する訴訟は全て終了しました。また、長良川河口堰建設差止請求訴訟から約30年間にわたって行ってきた木曾川水系のダム等建設事業に対する訴訟がなくなってしまいました。その殆ど全てを当事者として(代理人ではなくその気持ちでいました)行ってきた者として、もうすることがなくなってしまうという脱力感と亡き村瀬さんの思いに答えるためにも、さらに何かやらなければならぬという思いが交錯して、何とも言えない状態です。

「科学的合理性を追求して市民的正義と環境保全を実現する」というのが、裁判のあるべき姿と考えていることであり、私の訴訟スタンスです。そのために、事実と論理を徹底的に追求した訴訟活動をしてきました。やればやるほど、事実と論理は厚みを増し、かつ精緻となり、長良川河口堰や徳山ダムのダムの有害性と不必要性が明らかになり、分かっただけです。自分としては、やれることはやって最

### 市民学習会 長良川に徳山ダムの水は要らない

とき：2008年1月16日(水) 18:00開場、18:30開始(~20:30終了予定)

ところ：岐阜市 ハートフルスクウェアG 大研修室

(JR岐阜駅から続きの高架下2F(東側))

基調講演：「ダムが河川に及ぼす影響」 村上哲生(名古屋女子大教授)

主催：市民学習会実行委員会(代表：粕谷志郎(岐阜大学) 事務局：武藤仁\*)

資料代：500円

\*090-1284-1298

## 徳山ダム 支出凍結 上告審

# 住民の敗訴確定

岐阜県揖斐川町の徳山ダム建設に反対する市民団体のメンバーらが、県庁に建設費の支出差止めなどを求めた訴訟の上告審で、最高裁第二小法廷（古田佑紀裁判長）は三十日、原告の上告を棄却した。原告側の全面敗訴とした一、二審判決が確定した。

原告側は「工業用水の新たな需要はない。県民全体の負担となる一般会計からの負担金支出は違法」と主張。負担金の支

大の努力をしてきたつもりです。しかし、訴訟の判決では、私達が明らかにしたことについては、答えてくれない、沈黙の回答しかくれなひのです。答えさせられなかったことを考えると、厚い壁と自分の力不足を思うばかりです。

毎月幾度も、津の老母のもとに行くために長良川を渡ります。その度に、変わり果ててしまった長良川に胸が痛みます。また、毎年、8月

に徳山キャンプに行っていますが、ダム堰堤で川が詰められてしまった姿と今年の貯水で徳山村がなくなってしまっているを見て、同じ思いにかられました。

覚悟していたこととはいえ結果は得られませんでした。筋道を通しておかなければならないことがあり、その積み重ねが大切なのでしょう。小沢がやがて大河となるように、いずれは社会が動いていくはず。しかし、何もしなかつたら、いつまでもゼロであり、変わっては行かないのです。これを胸にこれからも生きていきたいと思っています。

長い間、一緒に訴訟活動を担っていただき、ありがとうございました。（07.12.09 在間正史）

「判断してない」「裁判所に不信感」原告弁護団

試験湛水（たんすい）

中の徳山ダムをめぐり、事業認定の取り消しを求める行政訴訟に続き、住民訴訟でも最高裁は三十日、上告を退ける決定を争う一連の訴訟は節目を迎えた。

原告弁護団の山田秀樹弁護士（右）は「水需要の低下に伴って事業計画も変更されるべきだった。この問題について裁判所は何も判断をしていない」と訴えた。

一方、岐阜県の古田率知事は「一九九九年三月の提訴以来、一審及び二審に続いて県の主張が最高裁においても認められる」との評価している。

↑ 07.12.01.中日新聞

07.11.25.朝日新聞 ↓

**徳山ダム導水路 反対派が学習会**  
中区、70人参加  
徳山ダムの水を木曾川に引くため、国土交通省が計画している連絡導水路事業をめぐり、同ダム建設に反対する市民グループが24日、名古屋市中区で学習会を開き、約70人が参加した。「財政難の時代に無駄な事業を優先したら、必要な治水事業までもが後回しにされてしまう」と批判する意見が相次いだ。

導水路事業は08年度にも着工の見通し。事業費は890億円。

## 11月24日 市民学習会第2弾！ ムダにムダを重ねる導水路

約70名が参加し、熱心な討論が行われました。伊藤達也さんの基調講演は、「木曾川水系流域委員会」に提出した意見書を中心としたものです。木曾川水系ムダ事業ダンゴ3兄弟（長良川河口堰・徳山ダム・木曾川水系連絡導水路）を止め、負の連鎖を断ち切りましょう。

# 拙速に強行される木曾川水系河川整備計画策定 木曾川水系連絡導水路は要らない！！

## ★ 木曾川水系流域委員会に意見書を提出

「徳山ダムをやめさせる会」として、第7回・第8回木曾川水系流域委員会に「意見書」を提出しました。伊藤達也さんによる「木曾川水系連絡導水路の問題点」が柱です。

(国土交通省中部地方整備局HP <http://www.cbr.mlit.go.jp/> 内

<木曾川水系河川整備計画 <http://www.kisosansen-plan.jp/> >

第7回・第8回「木曾川水系流域委員会に対して頂いた意見」にアップされています)

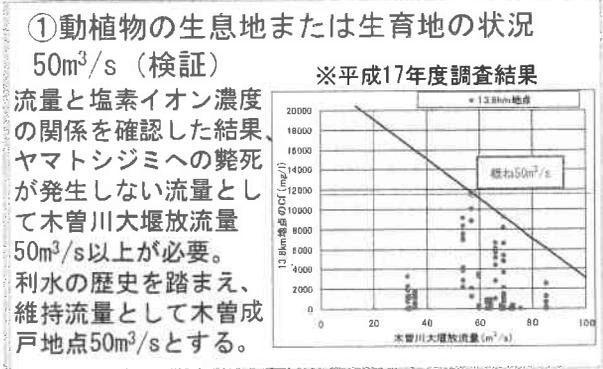
河川管理者側は、大いに「反応」して第8回・第9回木曾川流域委員会や、第3回・第4回ふれあい懇談会で、たくさんの「資料(反論?)」を出してきました。

しかし、木曾川水系流域委員会委員の多くは、「木曾川水系連絡導水路」についての基本的知識さえもなく「何がどう問題なのか、河川管理者が何を”反論”したのか」を理解していません。行政(のみ)が委員を選定するこの手の”学識者”委員会では、結局のところ行政の提案を追認する以上のことをする能力がないことが、ここにも表れています。

## ★ 木曾川水系河川整備基本方針策定

11月22日、国交省は木曾川水系河川整備基本方針を官報告示しました。基本方針での木曾川の「正常流量」(基準地点=今渡)は、「木曾成戸地点で50m<sup>3</sup>/sを維持流量とする」ことから遡って数値を出しています。この木曾成戸地点=50m<sup>3</sup>/sは、つまるところ1960年代に関係行政機関や団体の協議によって決まった「歴史的経緯の踏襲」です。今般木曾川水系河川整備基本方針策定にあたって「歴史的経緯というだけでは…」と指標的生物としてヤマトシジミを選んだ、というのです(中部地整担当者一複数一から聴き取り)。ところが河川整備基本方針検討小委員会では、出された「数値」に関わる資料は、ほぼ下のグラフだけです(このグラフには「何の科学的意味もない」ことは、木曾川水系流域委員会委員の関口秀夫議員も繰り返し指摘しました)。1997年河川法改正から10年間も「鋭意検討した」挙げ句、科学らしき装いもない維持流量(=ヤマトシジミのため)が、890億円のムダの上塗り(木曾川水系連絡導水路事業)の根拠となるというのは、まさに主権者・納税者を愚弄するものです。

ダムなど河川に大きな環境破壊をもたらす人工構造物を作る「理由」として、「河川環境保全」という響きの良い言葉で目眩ましをかけることには、強く異議申し立てをしておかねばなりません。



第6回木曾川水系流域委員会 参考資料より

## ★ 「要領の良い」流域委員会？

第7回・第8回の「徳山ダムをやめさせる会」意見書が出たことに、早速「反応」がありました。河川管理者は急ぎヤマほどの補充資料を作りましたが、委員達には通じない(何が問題だか分からない)。あまりの惨状に、辻本哲郎委員長の鶴の一声で「原案提示前に新規事業について、もう1回審議するため」急遽「第9回」がもたれました。

「第9回」では、木曾川水系連絡導水路の説明に長い時間がとられました。辻本委員長苛立って曰く「これではどこかの要領の悪い流域委員会みたいに何百回も会議をすることになって

しまう」。辻本氏は、何が何でも「木曽川水系連絡導水路を来年度予算に間に合わせる」ことを最優先として「要領の良い」（＝ろくな議論もない）流域委員会を開催してきたということです。

「要領の悪い流域委員会」＝淀川水系流域委員会（淀川委）であることは明らかです。Ⅰ期・Ⅱ期淀川委を「目障り」と考える河川官僚達の市民敵視感情が辻本氏に移入されていることが、端なくも明らかになりました。この発言は、淀川委・前委員長の今本博健氏から抗議があって、次の「第10回」で取り消さざるをえなくなりました（07.11.28付 朝日新聞記事参照）。

## ★ 河川整備計画(原案)提示

木曽川水系連絡導水路事業を水源機構の事業とするために「予算に間に合う河川整備計画策定」に走ったのです。11月22日の「第9回」に続き28日に「第10回木曽川水系流域委員会」が開催され、木曽川水系河川整備計画原案が提示されました。

今、河川法第16条の2第4項の手続きが行われています。1月18日(金)に3箇所で開催を実施する、公述人は河川管理者が選定する、とのこと。HP等での意見受付もこの日で終了する、と。まさに形式的に「意見を聴いてやる」にすぎません。

国土交通省中部地方整備局は28日、木曽川水系の今後30年間の整備内容を示す「木曽川水系河川整備計画」の原案を公表した。木曽川上流の新丸山ダムと、徳山ダムの水を利用する木曽川水系連絡導水路の建設は、河川環境の改善のために必要な事業と位置付けた。

この日は、大学教授や経済界の関係者ら15人でつくる木曽川水系流域委員会の第10回会合があった。会合の冒頭、委員長の辻本哲郎・名古屋大学大学院教授は、前回22日の会合で不適当な発言を

し、別の流域委員会の前委員長から抗議を受けた経緯を説明。陳謝した。原案は、インターネット（http://www.kisosansenshen-plan.jp/）で閲覧でき、はがきでの意見も受け付ける。東海地方にある国交省の出先事務所や関係自治体などでも縦覧している。

中部地政局は来年1月、愛知県一宮市、岐阜市、三重県桑名市で公聴会を開く予定。

# 木曽三川導水路「必要」

河川整備計画原案 生態系には懸念も

木曽川水系河川整備計画(原案)について ご意見をお聞かせ下さい！

朝日新聞 07.11.29

<http://www.kisosansen-plan.jp/kouchou/index.html>

木曽川水系河川整備計画(原案)について 公聴会を開催します！ ～公述人募集中～

<http://www.kisosansen-plan.jp/kouchou/index2.html>

長良川河口堰建設反対運動など全国的な運動をもって「一步（だけ）前進」した河川法の理念を、河川管理者とその意を呈した学者連中が踏みにじる… 全国に蔓延るそうした雰囲気の中で「木曽川水系河川整備計画策定」が行われようとしています。

中日新聞 07.12.02

## 東海TV「約束」グランプリ

東海テレビ制作の「約束～日本一のダムが奪うもの～」が、「地方の時代」映像祭2007のグランプリに輝きました。「国は騙す」… 約束を反故にされた徳山村村民の怒りと悲嘆を描いています。

●東海テレビが最高賞地域で作られた映像の上映と関係者の交流を旨とする第27回「地方の時代」映像祭2007が1日、大阪府吹田市の関西大学で開かれ、出品作120点の中から、岐阜県の徳山ダムをテーマにした東海テレビ放送制作のドキュメンタリー「約束～日本一のダムが奪うもの～」(今年2月放送)が最高賞のグランプリに選ばれた。番組は、行政がダム建設の代わりに村民と交わした道路造りの約束を破っていく構図を描いた。

同局のグランプリ受賞は、同じ徳山ダムを扱った「わが故郷は消えても」に続き、25年ぶりの2回目。

「やめよ！徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫

編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1

TEL/FAX 0584-78-4119 Email: tokuyama-dam@cside.com

URL: <http://tokuyama-dam.cside.com/>

郵便振替：00800-7-31632 年会費 2000円



### 徳山ダム

# 当初計画より25%不足

## 試験湛水 本格運用ずれ込みも 貯水量

二〇〇八年四月からの本格運用に向け、水をためる試験湛水(たんすい)の遅れが懸念される徳山ダム(揖斐川町)について、事業主体の水資源機構徳山ダム建設所は八日、現時点での貯水量を満水時の八割と見込んでいたが、実際は六割にとどまり、当初計画より25%不足していることを明らかにした。報道機関を対象にした同日の現地視察会で説明した。(河原広明)

試験湛水は来年三月末に見込まれた降雪雨量が、高四〇一センチまで上げ、それに終える予定だったが、貯水ペースは大幅に遅れ、三九一センチまで下げており、本格運用で安全性を確保する建設所の見直しも出ている。現時点での貯水量は満水時の八割と見込んでいたが、実際は六割にとどまり、当初計画より25%不足していることを明らかにした。



試験湛水が進む徳山ダム。見込まれた降雪雨量が、高四〇一センチまで上げ、それに終える予定だったが、貯水ペースは大幅に遅れ、三九一センチまで下げており、本格運用で安全性を確保する建設所の見直しも出ている。現時点での貯水量は満水時の八割と見込んでいたが、実際は六割にとどまり、当初計画より25%不足していることを明らかにした。

## 森の約束

### ダム予定地で

「徳山ダムは化け物でした。いきなり揖斐川の水原に、諏訪湖、ができた…。現在、樹木が生殺し(水死)の状況です」

徳山ダムを視察した友人からのメールだった。映画「水になつた村」で生き生きと暮らしていた村人の顔が浮かんだ。

設楽ダム予定地を見る行程に参加した。ダムはなぜ必要なのかの説明と、責任の所在をどこに求めればいいのか。徳山ダム建設の不透明性を繰り返さないためには何をしなければならぬのか。

とにかく、設楽ダムに関しては同じプロセスを繰り返してはならない。水底に沈む家々を見ながら、その思いを強くした。(海上の森の会・曾我部行子)

## 導水路の水、根尾川にも

### 岐阜県が国に要望

岐阜県揖斐川町の徳山。夏の水期に、川の水がダムの水を木屑で使えなくなり川床があらわになるようにする導水路計画なる「潮切れ」という現象をよく起こし、今年も上にある根尾川(揖斐川)四十日間観測された。「潮切れ」になると、稚魚の生存が危ぶまれている。岐阜県が国土交通省に求めたことが、七日の同県議会一般質問で分かった。同省は木曾川水系河川整備計画に組み入れ、要望に応える方針。



## 「反対派には理解されない」

### 徳山ダム導水路事業

要請後、やめさせる会共同代表の伊藤達也・金城学院大教授は「説明しても理解されない」という姿勢は情報公開以前の問題。説明責任を果たさない」と話した。

同会は導水路事業は、無駄を重ねる事業として反対の立場。その日は、同省中部地方整備局と愛知など三県一市が合意した上下流に計二本の導水路を造る「分割案」で、県負担額約三百十八億円の根拠などの説明を求め、併せて市民学習会への出席も要請した。

相模課長は「連絡導水路は治水対策に役立つ」としたが、導水路一本だった当初案と比べた県負担額の増減ははっきりしなかった。終了後、出席を断ったことについて「同会から説明を求められれば、こうして会って答えている」と話した。

名古屋市の市民団体「徳山ダムをやめさせる会」が八日、県庁を訪れ、徳山ダム(岐阜県揖斐川町)にためた水を再利用する国土交通省の連絡導水路事業で、二十四日に市内で開く市民学習会に県担当者の出席を求めたところ、相模知事県土地水資源課長は「反対の立場の人に理解されるとは思えない」と発言し、出席を断った。(石川浩)

## 県課長、市民学習会断る

### 徳山ダム(岐阜県揖斐川町)

唯一、残した建物は徳山小のコンクリート校舎。その水没まで見とどけた大西輔夫さん(39)＝岐阜県池田町出身＝の「水になつた村」は9月から各地で上映。村を去りがたいおばあちゃんたちの表情、ことば――15年追ひ続けた大西さんの、挽歌というにふさわしいドキュメントだった。

50年の歳月と3500億円を費やし、終わり、ではない。新たに890億円をかけて、延々と導水路を引くのだという。名古屋に住む私たちも徳山ダムの水をもらう日がくるかもしれない。

来年、ダムとして動き出す。浜名湖の2倍の貯水ができ、治水、利水、電源の役割を担いつつ、春から秋の水源観光地とする事業が進む。「愚策」、「英断」、いずれ答えを出すだろう。(中生加 康夫)

朝日新聞(名古屋本社版) 07.11.28  
ほぼA3版にあたる大きな写真が上に載っていました。  
写真の内容については右上の説明にある通りです。

## 沈んだ村 湖面に残る紅葉

名古屋から2時間余。福井県境の徳山にくと、映画のタイトルでもある「水になつた村」そのもの。一つの村を丸のみにした湖(名前はまだない)は晩秋の山の彩りをくっきりと映している。

旧村民がふるさとに集えるよう、開設された「徳山会館」で一休み。人里は消えうせ、紅葉は燃えさかる。

徳山ダム。名古屋の地下鉄開通の昭和32年、1500人の徳山村に建設話が持ち込まれ、分裂村長選があり、反対運動はやむとない。が、巨大事業を止められなかった。

中国、米國に次いでダムの多い日本(約2700カ所)で最大級。名古屋城の3倍の高さというダム堤に立つ。「堤体に使った土砂は海を埋め立てた中部空港の3分の1の量です。潜水の舞台のように、せり出した展望台を設置しています」と見学バスで説明を受ける。

唯一、残した建物は徳山小のコンクリート校舎。その水没まで見とどけた大西輔夫さん(39)＝岐阜県池田町出身＝の「水になつた村」は9月から各地で上映。村を去りがたいおばあちゃんたちの表情、ことば――15年追ひ続けた大西さんの、挽歌というにふさわしいドキュメントだった。

50年の歳月と3500億円を費やし、終



「クオカード」2000円分を10人の方に。はがきで、〒450-8691名古屋中央郵便局私書箱301号 朝日新聞元氣東海編集部「百景新話」係へ。12月3日必着。発表は発送をもってかえさせていただきます。

徳山会館(展示ホール、レストラン、宿泊施設)は12月15日から冬季閉鎖。水資源機構徳山ダム建設所の見学バス(水曜2回、日曜4回)は冬季閉鎖の前日まで運行。徳山行きのバスはない。揖斐川町中心部から国道303号を車で50分。問い合わせは徳山会館0585・52・0033、徳山ダム建設所0585・22・4711。

hyakkei shinwa

百景新話

元気東海